

「横光利一と菊池寛」展

内容紹介

菊池寛 雑誌『文藝春秋』の創刊

私は頼まれて物を云うことに飽いた。自分で考えていることを、読者や編輯者に気兼ねなしに、自由な心持で云って見たい。友人にも私と同感の人々が多いだろう。又、私が知っている若い人達には、物が云いたくてウズウズしている人が多い。一には自分のため、一には他のため、この小雑誌を出すことにした。

菊池寛「創刊の辞」(『文藝春秋』創刊号・大正11)

川端康成 横光利一の第一印象

横光氏に初めて紹介されたのも、菊池氏の中富坂の家であった。夕方三人で家を出て、本郷弓町の江知勝で牛鍋のご馳走になったのを覚えている。横光氏はどういうわけか殆ど箸をもたなかった。また小説の構想を話しながら声高に熱して来て、つかつかと道端のショウ・ウィンドオに歩み寄ると、そのガラスが病院の部屋の壁であるかのように、病人が壁添いに倒れ落ちる身真似をした。この二つは第一印象である。そういう横光氏の話し振りには、激しく強い、純潔な凄気があった。横光が先に帰ると、あれはえらい男だから友達になれ、と菊池氏が言った。

川端康成「文学的自叙伝」

菊池 寛 横光利一への弔辞

「弔辞」を
読む菊池寛



横光利一君の霊に告ぐ。君は作家として独自の天分を発揮し、創作百数十篇、常に文壇の主流たり、作家としての声誉をほしいままにせり。今五十年の生を卒ふるに当って、更に悔なからん。而も、二児既に成年に近く、夫人貞淑賢明なり、君安んじて眠れよ。

君は性、温厚純朴、内孤高の気魄を蔵して而も曾て人を憎まずまた人に憎まれず、文壇の君子として、身辺常に一脈の春風ありき。君死して、知友後進の悲嘆けだし無量ならん。

余は君を知りてより、三十年に近し。老ひて子を失ふより悲しきはなしと、老いて友を失ふことまた然り、先の池谷直木を失ひ、恨尚残れり。今また茲に、わが後事を托すべかりし君を失ふ。余が晩年に於ける不幸の一也。 菊池寛「弔辞」※横光家所蔵の原稿から

「横光利一と菊池寛」展

ごあいさつ

菊池寛がいなかったなら、横光利一は川端康成を知ることもなく、新感覚派の文学も生まれなかったかもしれません。「頼まれて書くのでなく、自分の言いたいことが書ける雑誌がほしい」と「文藝春秋」を創刊した菊池寛でしたが、その裏には、有能な若い作家たちにも発表の場を与えてやりたいという思いやりがありました。

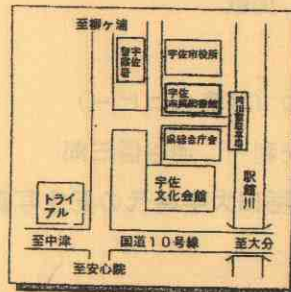
横光利一は、ちょうどそんな時期、菊池寛の恩恵を受けた若手作家の代表格とっていいでしょう。すぐに「文藝春秋」の同人に加えられ、芥川賞が創設されると大家にまじって選考委員も任されました。

そんな有望な後輩・横光利一がまさか自分より早く世を去ることになるとは思いもよらなかったことでしょう。「行く年や悲しき事の又一つ」。横光利一にこの追悼句を贈ったわずか三ヶ月後に、菊池寛も他界しました。

今回は、そんなふたりのつながりを紹介します。

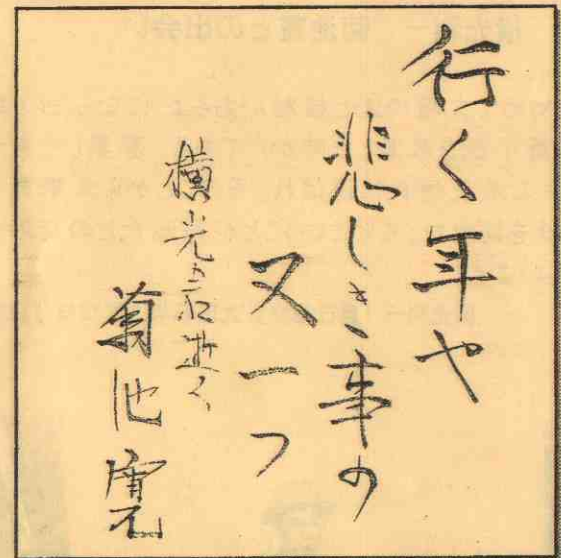
平成22年(2010)10月30日

宇佐市民図書館
渡網記念ギャラリー



平成22(2010)年10月30日/編集・発行 宇佐市民図書館
大分県宇佐市上田1017-1 TEL. 0978-33-4600

「横光利一と菊池寛」展



「行く年や悲しき事の又一つ/横光君逝く/菊池寛」
(宇佐市所蔵・三和文庫)

2010.10.30~12.26

10:00~18:00(日曜のみ ~17:00)
休館日…毎週月曜日・月末木曜日

宇佐市民図書館
渡網記念ギャラリー

「横光利一と菊池寛」展

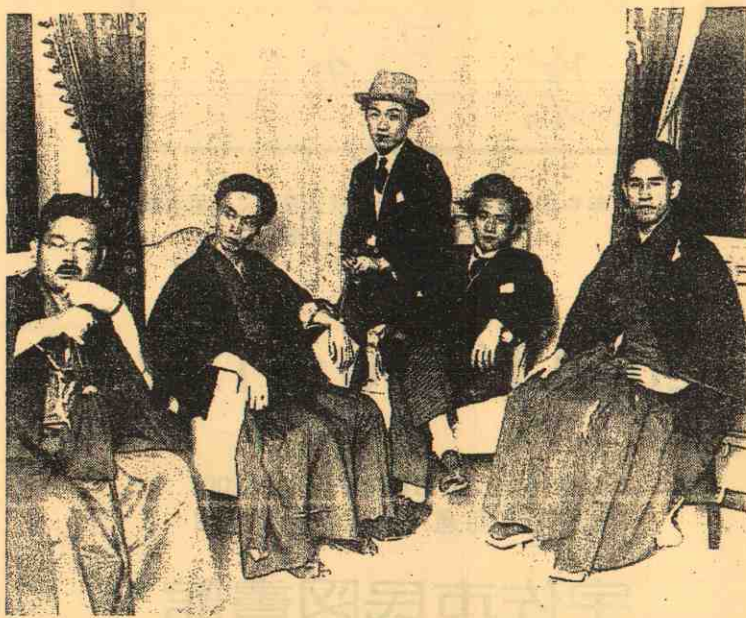


菊池寛と出会ったころの横光利一（大正7年ごろ）

横光利一 菊池寛との出会い

物を書いて初めて文壇の人と接触があるようになったのは「時事新報」社が短篇小説を募集した時からである。募集した自分の作が里見弴氏や久米正雄氏に選ばれ、そのことから久米氏の友人である菊池寛氏を訪れた。などということが菊池氏との交渉の出来初めだったと思います。

横光利一「自己紹介」大正13年1月13日『読売新聞』



左より、菊池寛、川端康成、片岡鉄兵、横光利一、池谷信三郎（昭和2年）

「横光利一と菊池寛」展

出品目録

【原稿】

1. 菊池寛「弔辞」（横光利一に葬儀で読んだ原稿）
※横光家所蔵の原稿のカラーコピー

【色紙】

2. 「行く年や悲しき事のまた一つ／横光君逝く／菊池寛」（自筆）
※宇佐市所蔵（三和文庫）新収蔵資料
3. 「寿」川端康成（複製）

【額装】

4. 「カムランの島浅黄なる更衣／横光利一」（自筆）
※宇佐市所蔵（三和文庫）
5. 「夏の花一つもあらず雷来る／横光」（自筆）
※宇佐市所蔵（三和文庫）

【写真】

6. 横光利一肖像写真（5）
7. 菊池寛肖像写真（3）
8. 横光利一と森敦
9. 横光利一「主観主義と菊池寛氏」原稿（コピー）
※『改造社文学月報』昭和2年4月に掲載
10. 昭和五年（1930）年九月、
満鉄の招きで飛行機で満州へ旅立つ（写真のコピー）
※左から直木三十五、菊池寛、横光利一、池谷信三郎
11. 佐藤一英と横光利一らの写真（早稲田大学時代の記念写真）
12. 横光利一結婚式の記念写真

「横光利一と菊池寛」展

出品目録

【本文・解説】

13. 横光利一略年譜
14. 菊池寛略年譜
15. 文藝春秋の創刊
16. 「父帰る」（菊池寛）あらすじ
17. 「恩讐の彼方に」（菊池寛）あらすじ
18. 「真珠夫人」（菊池寛）あらすじ
19. 芥川龍之介賞と直木三十五賞
20. 日本文藝家協会
21. 菊池寛賞と歴代受賞者一覧（戦後のみ）
22. ～菊池寛との出会い～（横光利一）
23. ～佐藤一英の証言～（佐藤一英）
24. ～横光利一の第一印象～（川端康成）
25. ～関東大震災直後のこと～（井伏鱒二）
26. ～キミの看病と千代との結婚～（井上 謙）
27. 菊池寛が横光利一の葬儀で読んだ弔辞
28. 菊池寛の遺書



菊池寛

【書籍】

29. 『御身』横光利一（金星堂・大13）初版
※横光利一の第一創作集。扉に「菊池師に捧ぐ」と印刷されている。
30. 『近代作家自筆原稿集』保昌・青木（東京堂出版・2001）
※菊池寛「悪因縁」原稿（写真）
31. 『新潮日本文学アルバム・菊池寛』（新潮社・1994）
※菊池寛「受難華」原稿（写真）
32. 『文藝春秋』（大正期から4冊）
33. 『文藝時代』復刻版から8冊（金星堂・大13～昭2）
34. 『菊池寛伝』改訂版（菊池寛記念館・1993）
35. 『藤十郎の恋・恩讐の彼方に』菊池寛（新潮文庫・1970）
36. 『真珠夫人』（上・下）菊池寛（新潮文庫・2002）
37. 『菊池寛全集』全24巻・補巻5（高松市・武蔵野書房）

【合計37種43点】